

○計画期間:平成31年4月～令和6年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点(令和4年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、平成31年3月に内閣総理大臣の認定を受け、同年4月からスタートした「長岡市中心市街地活性化基本計画（第3期計画）」に基づき、「まちを『つくる』『つかう』から『つなぐ』へ」をテーマに、持続可能な地方都市の再生を図るため、各種事業に取り組んでいる。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「まん延防止等重点措置」の適用で、市有施設は臨時休館や開館時間が短縮となり、令和3年度もイベントなど各種ソフト事業は中止を余儀なくされ、また事業の継続が困難な状況に陥る個店も現れるなど、地域経済に閉塞感と大きな打撃を与えた。しかしながら、市民活動が制限される中にありながらも、中心市街地の商店街では歩道空間を活用した飲食イベントが開催されるなど、賑わいを取り戻したいと考える民間団体による創意工夫を凝らした動きも出てきている。

また、長岡で暮らしながら首都圏企業にリモートワークで勤める新しい働き方「長岡ワークモデル」を実践する「NAGAOKA WORKER（ナガオカワーカー）」の動きも広がりを見せつつあり、若者のニーズやウィズコロナ時代に対応する民間による新たな取り組みも始まっている。市民が安心して訪れ、安全にイベント等が実施できる場所として、そして市民の誇りとなる「まちの顔＝中心市街地」の実現に向け、検討や取り組みを進めている。

ハード整備においては、大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業において、令和3年度からA-1、A-2、C街区の建設工事に着手し、令和5年度にはB街区の建設工事着手を予定しており、各街区の整備に向けて事業を進めているところである。事業完了後には歩行者通行量の増加や若者の居住人口の増加など、目標達成に向けて大きな事業効果が発現すると想定している。今後も引き続き計画に位置付けた活性化事業を着実に推進し、各目標の達成に向け、官民連携して各種事業に取り組んでいきたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度3月31日)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)
人口	5,660	5,685	5,596	5,501		
人口増減数		25	-89	-95		
自然増減数		-48	-64	-71		
社会増減数		73	-265	-104		
転入者数		281	290	210		

※計画前年度以前の区域の人口増減数等が把握できておらず記載ができないもの。

(2) 地価

(基準日：毎年度1月1日 / 単位：円/㎡)

	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)
4地区前年度比 平均変化率		98.5%	97.7%	98.0%		
大手通1-4-3	248,000	244,000	238,000	233,000		
台町2-2-8	114,000	112,000	109,000	106,000		
殿町2-2-6	97,700	96,500	94,800	92,700		
表町1-9-12	106,000	105,000	103,000	102,000		

2. 令和3年度を取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

第3期計画の5か年計画中の3年目となる令和3年度においては、全69事業の内64事業が実施されており、計画に基づき着実に進捗していると評価する。

目標指標の「まちを『歩く人』を増やす」、「まちに『集う若者』を増やす」については、2期連続で基準値を下回っている。これについては、新型コロナウイルス感染拡大が続き、行動が制限された影響を受けていると考える。しかしながら、令和5年度の「米百俵プレイス ミライエ長岡」一部オープンに向けて、引き続き、実証実験事業や民間団体との連携によるソフト事業の実施・支援を積極的に行うことで、中心市街地の賑わいづくりの機運を高めていきたい。

また、「まちで『起業する人』を増やす」についても基準値を下回っているが、起業支援センターCLIP長岡への相談も増えてきていることから、市内4大学1高専と産業界、行政が参画する「NaDeC BASE」構想の推進による人材育成やコワーキングスペースの整備・活用を推し進めるとともに、まちなかでの起業を志す人々への支援体制を産学連携で推進していくことが重要と考える。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
まちを「歩く人」を増やす	大手通交差点より西側の歩行者・自転車通行量 (平日)(人/日)	24,409 人/日 (H29)	26,652 人/日 (R5)	17,056 人/日 (R3)	C	①	①
まちで「起業する人」を増やす	中心市街地内の起業数 (件/5年)	25 件/5年 (H26～30)	40 件/5年 (R1～5)	4 件 (R3)	C	①	①
まちに「集う若者」を増やす	30代以下のまちなか居住人口(人)	1,656 人 (H29)	1,724 人 (R5)	1,450 人 (R3)	C	①	①
(参考指標)	学生限定のバスサービス利用者数(人)	78,881 人 (H29)	80,419 人 (R5)	—	—	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

目標「まちを『歩く人』を増やす」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、まちなかを訪れる人、出歩く人、まちなかをフィールドに活動する人が減ったことが、通行量の減少をもたらした大きな要因といえる。

そんな中であっても、「新しい生活様式」に対応したアイデアとマンパワーを活かした民間発のイベントも実施されるなど、「with コロナ・after コロナ」を見据えた動きも見られる。また、現在進行中の市街地再開発事業により新たな拠点も完成することから、目標達成は可能と見込まれる。

目標「まちで『起業する人』を増やす」についても、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昔ながらの店も閉めざろう得ない状況下でありながらも、昨年度と同数の起業がまちなかで行われていることは、都市機能の再生やマンション建設などの居住環境の整備により、中心市街地に「ヒト・モノ・情報」が集まるポテンシャルがあると判断されているものと考えられる。

今後、市内4大学1高専と産業界がコラボする拠点となる「NaDeC BASE」を核として、起業の機運醸成・学習機会の提供や外部有識者によるメンタリング、ビジネスアイデアの事業化支援などを進めることで、目標達成は可能と見込まれる。

目標「まちに『集う若者』を増やす」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で外国人労働者などが転出し、令和2年度の30代以下の居住人口は大幅に減少したものの、令和2年度から3年度にかけての減少幅は約1/3に抑えられている。

これは、働き方改革に伴う在宅ワークの浸透や、長岡市で暮らしながら大都市圏の企業などに完全リモートワークで勤める新しい働き方「長岡ワークモデル」の広がりにより、若者が就きたい職業につきやすい環境が整いつつあることも要因と考えられる。

今後、これまでに整備された子育て・活動・福祉環境と併せて、民間事業者によるマンション建設により、居住環境は更に整備が進むことから目標達成は可能と見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

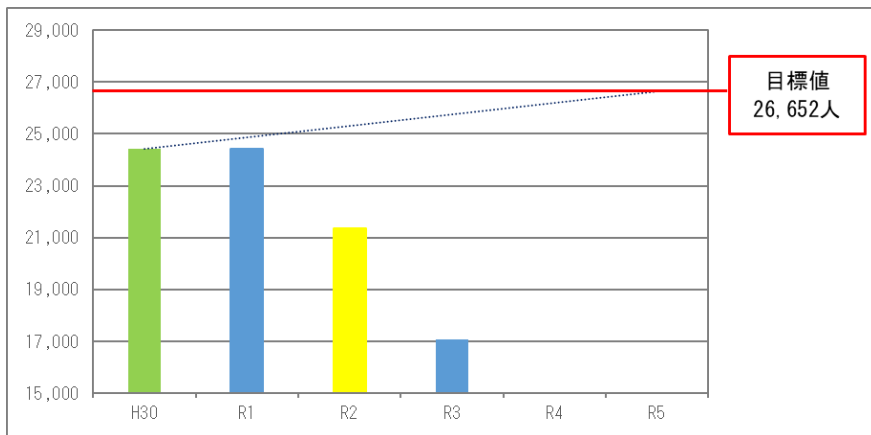
目標達成の見通しに変更はありません。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「大手通交差点より西側の歩行者・自転車通行量（平日）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 62～P. 66 参照

●調査結果と分析



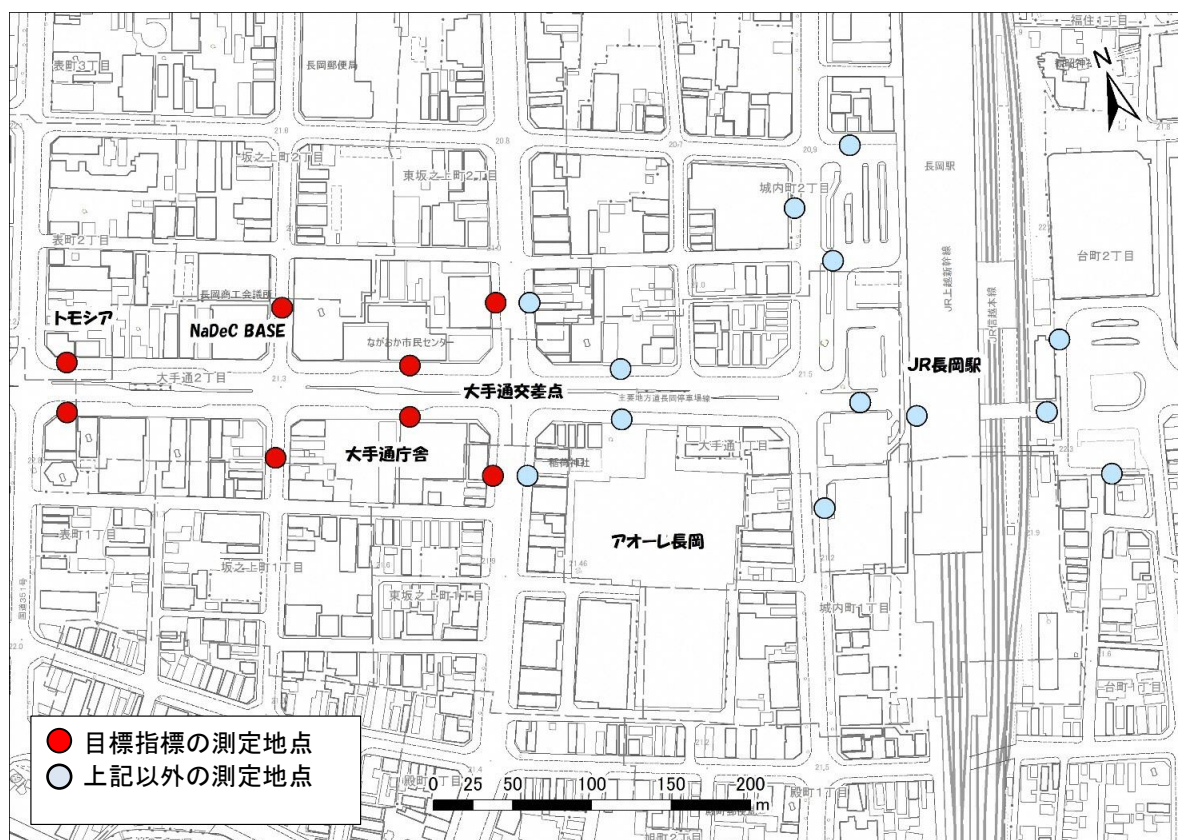
年	(単位)
H30	24,409 (基準年値)
R1	24,435
R2	21,357
R3	17,056
R4	
R5	26,652 (目標値)

※調査方法：平日の午前7時から午後8時までの通行量を測定

※調査月：各年10月

※調査主体：長岡市

※調査対象：中心市街区域内のうち、大手通交差点から西側の計8カ所における自転車及び歩行者



(単位：人)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度 (4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)
旧三井生命ビル前	2,092	2,153	2,247	2,084		
市民センター前	4,864	4,380	4,274	3,197		
旧長岡商工会議所前	2,801	3,436	2,240	1,388		
ながおか町口御門前	2,806	2,704	2,631	3,083		
ショッピングイン大手前	2,830	2,916	2,466	1,893		
旧メンズショップバートン前	1,624	1,852	1,331	1,029		
フェニックス大手イースト前	5,445	5,095	4,408	2,985		
いろはにほへと前	1,947	1,899	1,760	1,397		
合計	24,409	24,435	21,357	17,056		

〈分析内容〉

調査地点「旧長岡商工会議所前」と「フェニックス大手イースト前」は、令和 2 年度の値より 30%以上の減少となっている。「旧長岡商工会議所前」については、大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業や民間マンション建設による商業店舗等の閉店の影響で、また「フェニックス大手イースト前」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で施設利用者が減少したことが大きな要因と思われる。

逆に、「ながおか町口御門前」については、昼間の時間帯に行われる再開発事業やマンション建設の関係者、及び社会福祉センターの利用者や隣接するマンションの住人、そして夕方に学習塾に通う児童や生徒の往来があったことで増加に転じたと推察する。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業（独立行政法人都市再生機構、長岡市）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 6 年度【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により、公共公益、業務、商業施設、集合住宅、駐車場等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成 29 年度～令和 4 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	A-1、A-2、C 街区の施設建築物の建築工事を実施しており、事業完了に向けて順調に進捗している。（A-1、A-2、C 街区：令和 5 年度竣工予定） A-1、A-2、C 街区の事業完了時には 266 人/日の事業効果を見込んでいる。
事業の今後について	令和 5 年度からは、B 街区の建設工事着手を予定している。

②. まちなか図書館（仮称）整備事業（長岡市）

事業実施期間	平成30年度～令和7年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、図書館機能を含む複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年度～令和元年度） ②都市構造再編集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年度に策定した「米百俵プレイス（仮称）人づくり・学び・交流エリアまちなか図書館（機能）基本計画」に基づき、令和3年度は選書やサービス計画を策定し、開設準備を進めた。 事業完了時には920人/日の事業効果を見込んでいる。
事業の今後について	令和3年4月から建築工事に着手した。令和3年度に策定した「米百俵プレイス ミライエ長岡 まちなか図書館（互尊文庫）サービス計画」に基づき、令和5年夏の一部開館に向け準備を進める。

③. 産学連携情報交流センター（仮称）整備事業（長岡市）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、地元産業の開発・研究・情報発信等の拠点となる施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（令和元年度） ②都市構造再編集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和元年度に委託した実施設計に基づき、令和3年度は市の商工担当部署で、求められる機能や運営体制を検討した。 事業完了時には656人/日の事業効果を見込んでいる。
事業の今後について	令和3年4月から建築工事に着手した。令和3年度に委託した「米百俵プレイスミライエ長岡イノベーションサロン（仮称）機能・運営体制検討業務」に基づき、令和5年夏の一部開館に向け準備を進める。

④. トモシア交流支援事業（社会福祉法人長岡市社会福祉協議会、長岡市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	社会福祉センタートモシアで市民の交流の場を提供するとともに、ボランティア活動を支援し広く発信する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成31年4月～令和6年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症発生に伴い、感染症拡大防止対策として、約1か月半（5/17～6/14、

	<p>9/3～16)の臨時休館や閉館時間の短縮、新しい生活様式に合わせた利用人数の制限などを実施したことで、利用者数は減少傾向で横ばいであった。全体の利用者数は、2年度が28,897人に対し、3年度は30,416人と前年比5.2%の増加となっている。</p> <p>トモシア内のボランティアセンターにおけるボランティア件数については、2年度が1,019件に対し、3年度は738件と年比27.58%の減少となっている。</p> <p>これは、相談件数の減少ではなく、ボランティア相談窓口を含め、トモシア入居団体等の窓口を整理したことによる一時的相談案件が減少したことが要因であるが、新型コロナウイルス感染症に伴い「ボランティアが欲しい」「ボランティアをしたい」は減少傾向にある。</p> <p>利用者数は減少傾向で横ばいである一方で、利用件数については、令和3年度は3,413件(令和2年度は3,324件)となり、令和元年度の4,612件の74%まで回復している。</p> <p>これは、「トモシア」の存在が市民に浸透してきたことと同時に、新しい生活様式を实践するうえでも使い勝手の良さや現場職員の対応などが、広く市民から受け入れられていることが推察できる。</p> <p>事業完了時には34人/日の事業効果を見込んでいる。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>引き続き、市民に広く受け入れられる施設を目指し、指定管理者と協議しながら、世代に応じた情報発信や、新しい生活様式を実施しながらも交流できるようなプログラムを検討するとともに、来館者に対する接遇向上に努めていく。</p>

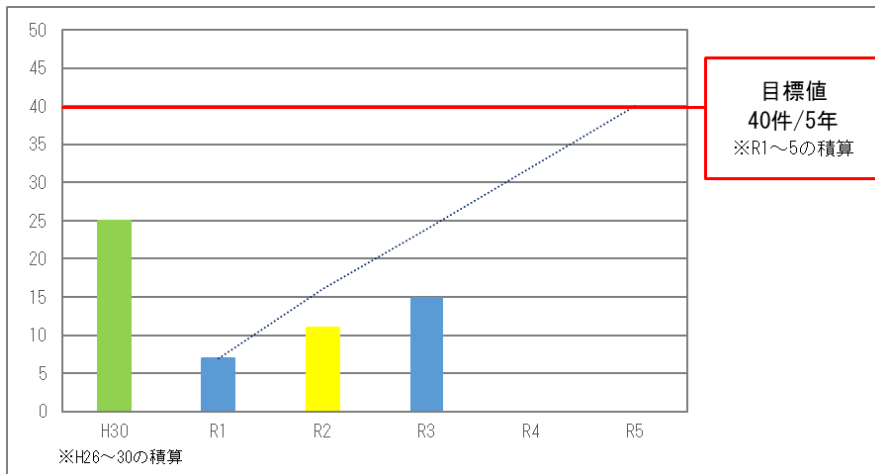
●目標達成の見通し及び今後の対策

「まちなか型公共サービス」の進展もあり、令和元年度に歩行者通行量は微増した。一方で、市街地再開発事業による商業店舗等の移転や新型コロナウイルス感染拡大の影響により、まちなかを訪れる人、出歩く人、まちなかをフィールドに活動する人が減ったことで、令和2年度に続き減少に転じている。そんな中であっても工夫を凝らした民間発のイベントや「with コロナ・after コロナ」を見据えた動きもあり、それらの動きと連携するとともに、現在進行中の市街地再開発事業により新たな拠点も完成することから、目標達成は可能と見込まれる。

(2) 「中心市街地内の起業数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 67～P. 69 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H26 ~30	25 (基準値)
R1	7
R2	11
R3	15
R4	
R5	40 (目標値)

※調査方法： 長岡市、ながおか・若者・しごと機構及び起業支援センターながおか相談者へのヒアリング

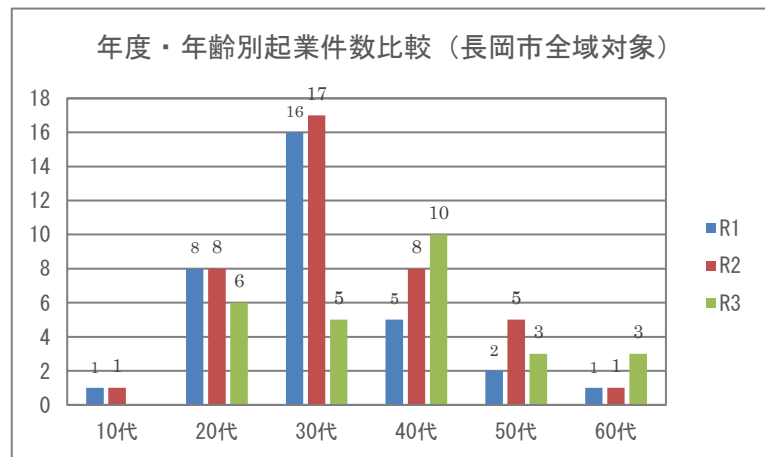
※調査月： 平成31年4月～令和6年3月の5年間の累計（毎年度3月末調査）

※調査主体： 長岡市

※調査対象： 中心市街地域内での起業者

〈分析内容〉

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、飲食店などの閉店が相次ぐ世相もあり、中心市街地内の起業数(上図)の増加は低調で、長岡市全域の起業数(右図)も令和2年度より減少している。
- ・関係者へのヒアリングでは、物件の高額家賃や駐車場確保などもあり、まちなかでの起業を敬遠する傾向もあるとの声も聞かれた。



- ・起業支援センターでの起業家のための交流の場の提供やメンターを配置した起業・創業の相談窓口、長岡市の「ファーストペンギンプログラム※」などによる起業・創業支援を継続することで、起業数は伸びるのではないかと推測する。

※ファーストペンギンプログラム

長岡市内の4大学1高専、長岡商工会議所、長岡市が「NaDeC 構想」に基づいて行う段階的な起業支援事業。事業の構想につながる社会・企業の課題解決に取り組む機会の提供から企業としての成長までの一貫した支援を行う。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. NaDeC構想先行実施事業（NaDeC構想推進コンソーシアム、
市内4大学1高専、長岡商工会議所、長岡市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業への導入を検討するNaDeC構想について、既存施設で先行的に実施して検証を行う。
国の支援措置名 及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	平成30年6月から先行実施施設NaDeC BASE を開設し、事業を実施。市内4大学1高専の学生教職員を中心に地域企業関係者や市民の利用が新たに発生している。 平成30年度NaDeC BASE 利用者数18,436名 （うちものづくり工房新規利用者数 13名） 令和元年度NaDeC BASE 利用者数16,000名 （うちものづくり工房新規利用者数 55名） 令和2年度NaDeC BASE 利用者数 3,354名（7か月） （うちものづくり工房新規利用者数 43名） 令和3年度NaDeC BASE 利用者数 4,999名 （うちものづくり工房新規利用者数 50名） 事業完了時には10件/5年の事業効果を見込んでいる。
事業の今後について	令和2年9月にNaDeC構想実践の場を中心市街地の市有施設内に移転。新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、オンライン配信やテレワーク環境の整備を行い、新たな可能性を見出す産業支援、人材育成、交流事業を実施。 市民や事業者など多様な人が出入りする立地の利点や、併設する「起業支援センターCLIP長岡」と連携して、学生や市民のスタートアップの機運醸成を図りたい。

②. 若者チャレンジショップ事業（ながおか・若者・しごと機構）

事業実施期間	平成30年度～令和元年度【完了】
事業概要	起業を目指す若者を支援するため、体験出店、セミナー、個人相談を実施する。
事業目標値・最新 値及び進捗状況	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成31年4月～令和元年10月）
事業効果及び進 捗状況	<令和元年度実施事業> ○若者チャレンジショップ in 五・十の市 五・十の市におけるお試し出店の機会を提供 支援内容：出店経費補助、出店に係る備品貸与 出店者：3人 ○若者チャレンジショップ出店講座

	<p>起業支援センターながおか clip への業務委託により、講義とまちなかでのお試し出店をセットにした講座（全 4 回）を開催</p> <p>第 1 回：出店計画セミナー（受講者：8 人）</p> <p>第 2 回：お試し出店（出店者：8 人）</p> <p>第 3 回：課題振り返りセミナー（受講者：6 人）</p> <p>第 4 回：リベンジ出店（出店者：6 人）</p> <p>○若者チャレンジショップ in 米百俵まつり</p> <p>米百俵まつりにおけるお試し出店の機会を提供</p> <p>支援内容：出店経費補助</p> <p>出店者：5 人</p> <p><事業効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地での起業・出店者 1 人 ・中心市街地における起業マインドの醸成 <p>事業完了時には 3 件/5 年の事業効果を見込んでいる。</p>
事業の今後について	<p>ネット通販の浸透など消費行動の変化に伴い、店舗型の起業・出店のニーズは年々低下し、参加者も固定化しているため、チャレンジショップ事業としての支援は令和元年度で終了する。</p> <p>今後、若者の起業・創業は「若者提案プロジェクト実現事業」等によって店舗型に限らず幅広く支援していく。</p>

③. 学生起業家育成事業（長岡市、長岡商工会議所、起業支援センターCLIP 長岡、市内金融機関）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	NaDeC BASE をメイン会場に、学生の起業創業のサポートを行う。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府） （令和元年度～5 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p><学生起業家育成事業による起業件数></p> <p>H30 年度：1 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拾壹・ビッグストーン株式会社 <p>R1 年度：2 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベイビーチャップリン ・株式会社サケアイ <p>R2 年度：5 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社プロッセル ・株式会社 THE TWO ・株式会社雷神 ・すまいるカフェ ・合同会社発酵を科学する研究所 <p>R3 年度：3 件</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社パンタレイ ・Rural Reading (ルラル リーディング) ・株式会社スタイルアーツ <p><事業効果> 中心市街地内の起業数 2件 事業完了時には2件/5年の事業効果を見込んでいる。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>起業関連の講演やセミナーの開催により起業の機運醸成・学習機会の提供を行うとともに、外部有識者によるメンタリングを実施しビジネスアイデアの事業化を支援する。事業化の際には学生起業家育成補助金を支給し、資金的な援助を行う。起業後についても、定期的・継続的に事業実施状況を確認し、成長につながる支援を実施する。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

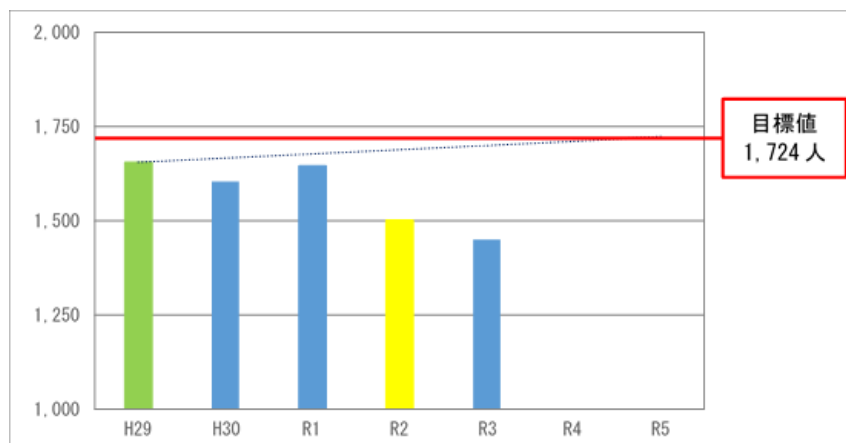
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、飲食店の閉店や事業所の撤退が目立つ状況化にありながらも、昨年度と同数の起業がまちなかで行われていることは、都市機能の再生やマンション建設などの居住環境の整備により、中心市街地に「ヒト・モノ・情報」が集まるポテンシャルがあると判断されているものと考えられる。

今後も、市内4大学1高専と産業界がコラボする拠点となる「NaDeC BASE」を核として、起業の機運醸成・学習機会の提供や外部有識者によるメンタリングと併せて、「学生起業家育成事業」や「長岡市スタートアップ創出補助金」により、若年層からシニア層まで起業しやすい環境を整えることで、目標達成は可能と見込まれる。

(3) 「30代以下のまちなか居住人口」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 70～P. 73 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H29	1,656 (基準年値)
H30	1,605
R1	1,646
R2	1,502
R3	1,450
R4	
R5	1,724 (目標値)

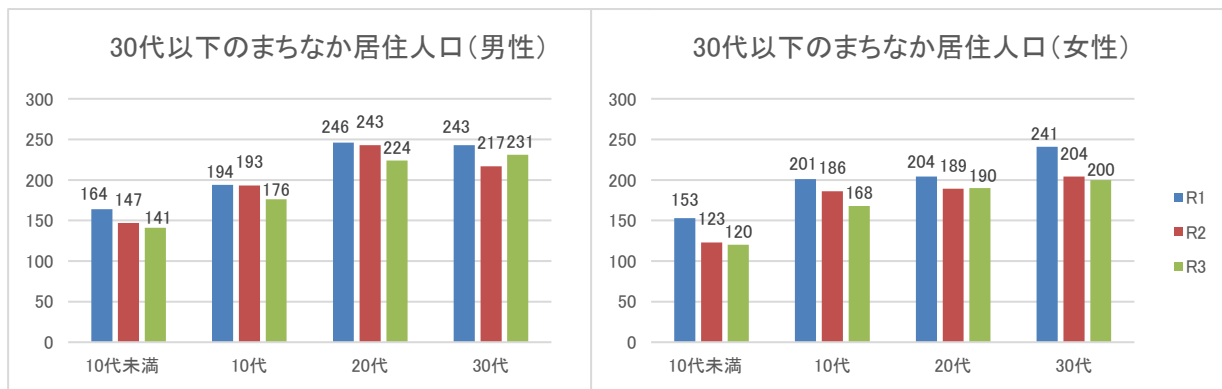
※調査方法： 住民基本台帳

※調査月： 各年度3月末時点

※調査主体： 長岡市

※調査対象： 中心市街地区域内の39歳以下の人口

〈分析内容〉



- ・男性の30代と女性の20代は微増しているものの、それ以外の年代では減少している。これは、大型商業施設や住宅地開発の郊外化により、マイカーを持つ若い子育て世代が郊外に住宅を新築して移住する傾向が強いことや、自分が希望する学業や仕事を求めて、首都圏に移住する若年層が多くみられることが要因と推測される。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響がもたらす経済的な不安から、結婚や出産を控える傾向が見られ、人口増を阻害していると思われる。
- ・今後、再開発事業で整備される「米百俵プレイス(仮称)」には、まちなか図書館、コワーキングスペース、交流・賑わいスペースなどの機能が集積され、また民間のマンション建設により居住環境も整備されることから、まちなかの居住人口が増加すると推測する。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業（独立行政法人都市再生機構、長岡市）

事業実施期間	平成29年度～令和6年度【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により、公共公益、業務、商業施設、集合住宅、駐車場等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	A-1、A-2、C街区の施設建築物の建築工事を実施しており、事業完了に向けて順調に進捗している。（A-1、A-2、C街区：令和5年度竣工予定） A-1、A-2、C街区の事業完了時には33人の事業効果を見込んでいる。
事業の今後について	令和5年度からは、B街区の建設工事着手を予定している。

②. 若者のまち居場所づくり推進事業（長岡市、民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【実施中】
事業概要	旧柳原分庁舎敷地を活用し、若者が居住できる環境を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	民間資金等活用事業調査費補助事業（内閣府）（令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年度は、簡易評価型プロポーザル方式により「PFI等の導入可能性調査業務委託」を実施。委託業者を中心に、市内4大学1高専の学生を対象としたアンケートやワークショップなどのニーズ調査のほか、民間事業者向けの意向調査も実施し、敷地活用の方向性について調査を行った。 令和3年度は、本地で活動をするうえで必要な電気・水道のインフラ整備を行い、事業の推進と機運醸成、敷地の利用価値を高めるための環境を整えた。 事業完了時には50人の事業効果を見込んでいる。
事業の今後について	引き続き、「若者の活動」や「地域の交流」を目的としたイベントやワークショップ等で土地を活用してもらい、価値や認知度を高めていながら、現在整備中の「米百俵プレイス（仮称）」の完成も見据えた敷地の活用に向けた検討を進めていく予定である。

③. まちなか建物更新等支援事業（まちづくりを目指す団体、民間事業者、長岡市）

事業実施期間	平成 28 年度～令和 7 年度【実施中】
事業概要	老朽建築物や空き地の共同化による市街地環境の整備・改善を行う事業者を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国交省） （平成 29 年～令和 4 年） [認定基本計画：国の支援措置なし]
事業目標値・最新値及び進捗状況	優良建築物等整備事業を進めている 1 地区（大手通界限 D 地区）では、基本設計が完了し、事業化に向けて準備を進めている。 また、中心市街地活性化基本計画区域において建築後 30 年が経過した老朽化した建物が増えてきており、共同化による建替支援を検討する市民からの問い合わせが増加している。 事業完了時には 28 人の事業効果を見込んでいる（本事業等によるマンション供給を含む）。
事業の今後について	1 地区（大手通界限 D 地区）では、令和 5 年度以降に実施設計、除却工事、建設工事の実施を予定しており、竣工に向けて引き続き支援を行う。

④. まちなか居住区域定住促進事業（長岡市）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	まちなかへの転入者が住宅を購入等して居住する場合、固定資産税を免除する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	1.事業目標値 41 人／年 「まちなか居住区域定住促進事業」等の効果により中心市街地へ入居する子育て世帯を 10 世帯 世帯人数を 4.1 人（長岡市内の未就学児、小学生の兄弟数の平均 2.1 人＋両親）として、10 世帯×4.1 人＝41 人 ※長岡市中心市街地活性化基本計画＜第 3 期計画 参照＞ 2.最新値 平成 30 年 申請期間 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 1 月 31 日 子育て世帯 8 人（2 件） 全体 26 人（13 件） 令和元年 申請期間 平成 31 年 2 月 1 日～令和 2 年 1 月 31 日 子育て世帯 53 人（12 件） 全体 96 人（37 件） 令和 2 年 申請期間 令和 2 年 2 月 1 日～令和 3 年 1 月 31 日 子育て世帯 31 人（8 件） 全体 40 人（14 件） 令和 3 年 申請期間 令和 3 年 2 月 1 日～令和 4 年 1 月 31 日

	<p style="text-align: center;">子育て世帯 84人(24件) 全体 118人(43件) 計 176人(46件) 計 280人(107件)</p> <p>3.事業進捗状況</p> <p>平成30年はパンフレットやHP等による広報を行ったが、制度開始直後ということもあり、目標値を達成することができなかった。令和元年は時間経過により制度に関する認知が浸透してきたこともあり、目標値を大幅に上回る申請があった。令和2年は前年に比べて申請件数の減少がみられたが、令和3年は新築マンション等に制度周知のお知らせ文をポスティングする等の効果もあり、件数が大幅に増えた。</p> <p>事業完了時には41人の事業効果を見込んでいる。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>今後も様々な方法で情報発信を行い、周知を行っていくことでさらなる制度利用を促進する。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

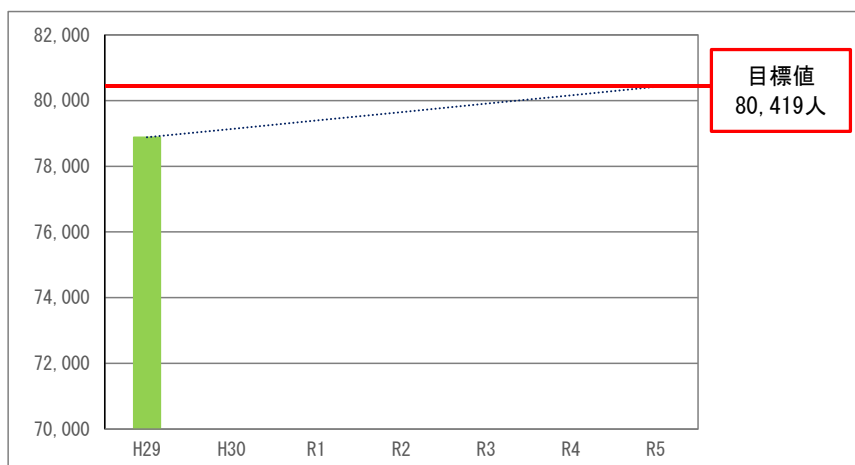
令和元年度には基準値に近いまちなか居住人口であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による外国人労働者などの転出により、令和2年度には大幅に減少した。しかしながら、令和2年度から3年度にかけての減少幅は約1/3に抑えられたのは、働き方改革に伴う在宅ワークの浸透や、長岡市で暮らしながら大都市圏の企業などに完全リモートワークで勤める新しい働き方「長岡ワークモデル」の広がりにより、若者が就きたい職業につきやすい環境が整いつつあることも要因と考えられる。

今後整備される「米百俵プレイス（仮称）」と、これまでに整備された子育て・活動・福祉環境に併せて、民間事業者によるマンション建設により、居住環境は更に整備が進むことから目標達成は可能と見込まれる。

(参考指標) 学生限定のバスサービス利用者数

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 74~P. 75 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H29	78,881 人 (基準年値)
R5	80,419 人 (目標値)

※調査方法: 「ちょい乗りバス券」及びN a D e C構想事業シャトルバス等利用者の実数

※調査月: 各年度4月から3月までの累計

※調査主体: 長岡市

※調査対象: 「ちょい乗りバス券」利用者及びN a D e C構想事業シャトルバス等を利用する学生

※学生交流「ちょい乗りバス券」実証実験事業が早期完了しており、最新のバス利用者数が測れないことから最新値を表示できないもの。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まちなか図書館(仮称)整備事業(長岡市)

事業実施期間	平成30年度~令和7年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、図書館機能を含む複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(長岡市中心市街地地区))(国土交通省)(平成30年度~令和1年度) ②都市構造再編集中支援事業補助金(長岡市中心市街地地区)(国土交通省)(令和2年度~令和4年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年度に策定した「米百俵プレイス(仮称)人づくり・学び・交流エリアまちなか図書館(機能)基本計画」に基づき、令和3年度は選書やサービス計画を策定し、開設準備を進めた。 事業完了時には802人/年の事業効果を見込んでいる。
事業の今後について	令和3年4月から建築工事に着手した。令和3年度に策定した「米百俵プレイス ミライエ長岡 まちなか図書館(互尊文庫)サービス計画」に基づき、令和5年夏の一部開館に向け準備を進める。

②. 産学連携情報交流センター（仮称）整備事業（長岡市）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	大手通坂之上町地区市街地再開発事業において、地元産業の開発・研究・情報発信等の拠点となる施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（長岡市中心市街地地区））（国土交通省）（令和元年度） ②都市構造再編集中支援事業補助金（長岡市中心市街地地区）（国土交通省）（令和2年度～4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和元年度に委託した実施設計に基づき、令和3年度は市の商工担当部署で、求められる機能や運営体制を検討した。 事業完了時には736人/年の事業効果を見込んでいる。
事業の今後について	令和3年4月から建築工事に着手した。令和3年度に委託した「米百俵プレイスミライエ長岡イノベーションサロン（仮称）機能・運営体制検討業務」に基づき、令和5年夏の一部開館に向け準備を進める。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業であるハード整備については概ね順調に進捗しており、目標達成は可能と見込んでいる。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、NaDeC 構想の先行実施施設「NaDeC BASE」や市内4大学1高専と長岡市が協働で、生涯学習や社会教育の枠を超えた学びをプロデュースする「まちなかキャンパス長岡」など中心部にある施設の利用者数は大きく減少している。

しかしながら、「NaDeC BASE」と同所にある「起業支援センターCLIP長岡」では、起業家のための交流の場の提供や、メンターを配置し起業・創業の相談が行われ、また、「ファーストペンギンプログラム」や「学生起業家育成事業」などの起業・創業支援により、学生の起業相談や件数も伸びており、「NaDeC BASE」が学生の活躍の場として定着してきていることがわかる。

引き続き新型コロナウイルス対策を講じながら、各大学と連携した取り組みを実施するなど、ハード整備の進捗と合わせて目標達成に向けて事業を進めていきたい。